

## 子どもたちの「いい塩梅」

安城中部小学校長 稲留 雄一

朝夕の気温も心地よくなりました。プール南のカキの木もたくさんの実をつけ、色づき始めました。いつしか日没時間も早くなり、暑かった夏も終わりを告げています。



例年10月に実施していたスポーツフェスティバルが、今年は11月13日（木）に実施を予定しています。来年度（令和8年度）に安城中部小学校のこれまでの授業の取組や学校づくりの成果をご覧いただく研究発表会を10月に計画しているため、本年度の実施から日程をずらしました。子どもたちのがんばっている姿や先生方が一人一人の子どもたちを支える姿を多くの皆様に見ていただき、ご指導をいただく貴重な機会です。実り多いものになるよう、準備を進めてまいります。

秋の訪れとともに、子どもたちの休み時間の活動も一段と活発になってきました。暑すぎた夏に、外での活動が制限されていた分を取り戻すかのようです。

ある日、2時間目の後の休み時間に運動場を眺めていると、朝礼台の前に20人ほどの2年生の子どもたち（クラスはバラバラ）が集まっていました。オニゴ（鬼ごっこ：子どもたちは「オニゴ」と呼びます）が始まるのと思っていたのですが、「リレーやろうぜ」という声のもと、20人ほどが頭を寄せ合ってチーム決めを始めました。スポーツフェスティバルでは、2年生は今年も徒競走なのですが…。聞いてみたら「ほかのクラス（3年生）がやっているのを見て楽しそうだったから」とのこと。

しばらく見守っていると、20人が一斉にグーとパーでチーム分けを始めました。案の定、なかなか決まりません。それでも途中で、少しの人数の違いは、誰かが余分に走ればよいということになりました。走る順番も「オレ○番！」と自己申告制のようです。大人からするとチーム間の走る速さの違いや走順などが気になります。「こっちのチーム○○君しか速い人いないじゃん。」と言い出す子どももいたのですが、そのままレースはスタート。大きな声援が運動場に響く中一生懸命に走る子ども、後ろのチームとの差が開いてしまったので、少しスピードを落として走る子ども。やがて、「ピヨピヨ」とバードチャイムの予鈴が鳴ったところで、アンカーがスタート。子どもたちはアンカーが走るのを見ながら、後ろ向きで校舎へと帰り始めました。アンカーが力いっぱい走り二人ともゴール。帰りながら、「昼放課もやる？」「うん、やる。」と口々に言って別れていきました。

子どもたちは子どもたちなりの「いい塩梅」で人間関係を調整し、楽しさを分かち合っているのでしょう。大人から見ると、効率や公平といった視点から「速さの同じくらいの二人でじゃんけんして、チームを分けたらどう？」なんて言ってしまいそうですが、大人の大きなお世話なのですね。子どもたちは、その遊び自体が楽しいのです。リレーがしたかったのです。勝敗の結果は大人が考えるほど大きくなかったのかもしれませんが。遊びは子どもの成長の大きな糧になっているのでしょう。ブランコの順番待ちでも大きなトラブルを起こさず、「いい塩梅」で譲り合っている子どもたちの姿も遠くに見えました。